

小学校第5学年 体育科学習指導案

学習指導者 高松市立牟礼北小学校 廣瀬 尚哲

1 単元名 「ボール運動 ゴール型 ハンドボール～つないでシュート! 台形ゴールハンドボール～」

2 単元計画(総時数 8時間【本時 5/8】)

- 台形ゴールハンドボールの行い方を知り、ゲーム1のリーグ戦1stステージを行い、試合内容をふり返って、チームがより多く得点するための動きや作戦を考え、練習試合に生かす。(4時間)
- ゲーム2のルールを知り、より多く得点するための動きや作戦を考え、リーグ戦2ndステージに生かす。(3時間)
- 他のチームの良い動きを参考にしながら、ゲーム2の試合内容をふり返り、チームがより多く得点するための動きや作戦を考え、チャンピオンシップゲームに生かす。(1時間)

3 授業の見どころ

本実践では、ボール運動のゴール型ゲーム、ハンドボールのルールを基に、授業者が意図的にルールを変更した「台形ゴールハンドボール」を教材としている。ゴールの形状を台形型にしたり、守備者の動ける範囲を制限して時間内に一方向からの攻撃をくり返すルールにしたりすることで、学習内容の核である「ボールを持っていない時の動き」を学習しやすくし、チームでパスをつないで得点を取る楽しさを味わわせられるようにする。

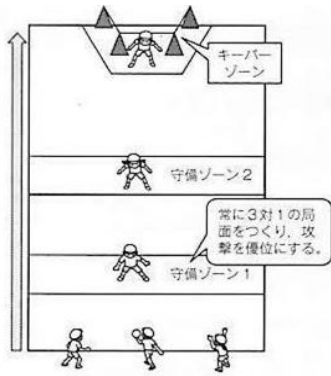
ゴールの形状を台形型にすると、3方向からシュートを狙えるため、コートをより広く使ったサイドからの攻撃が容易になる。また、守備の動ける範囲を制限したり、制限時間内に一方向から攻撃をくり返したりすることは、攻撃側チームのコート内での数的優位をつくり、パスをつないで得点を取るまでの動きを再現しやすくする。

前時では、ゲーム1からレベルアップしたゲーム2に移行したことで、守備者の動ける範囲が広がり、攻撃側チームのパスがつながりにくくなった。この状況を受け、攻撃側プレイヤーがボールを持っていない時に、どのように動けば、パスがつながり得点できるのかを考える。その際には、ボールを持っていない時に、どのように動くことで守備をかわしてパスがつながるのか子どもたちの言葉でまとめられるようにしたい。

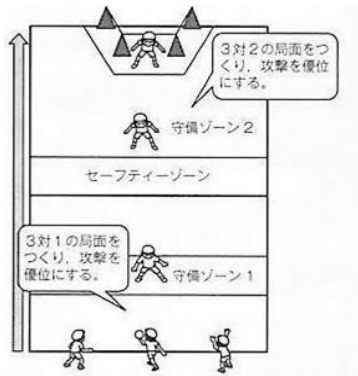
【台形ゴールハンドボールのルール】

- ・ 1試合は前後半4分(攻撃2分・守備2分)×2の計8分でゲームを行い、前後半で合わせて何点取れたかを競う。
- ・ 一度に試合に出られる人数は3人とする。5人のチームは1名交代で前後半試合に出る。
- ・ 攻撃側プレイヤーはパスでボールを運ぶことができる。(ドリブルはできない。ボールを持っている時はその場から動けない。)
- ・ 守備側プレイヤーは攻撃プレイヤーの体に直接ふれたり、直接ボールをうばったりしない。(パスカットでボールをうばうのは可。)
- ・ キーパーゾーンには、守備側プレイヤーのキーパーのみ入ることができる。
- ・ 制限時間内に一方向から攻撃をくり返す。(時間が来たら攻めと守りを交代する。)
- ・ 攻撃側プレイヤーは「相手にパスカット(キャッチ)される」「ボールがコートから出る」「得点を入れる」等した場合に、全員でスタートラインまでもどり、攻撃をやり直す。
- ・ スタートゾーンに攻撃プレイヤー(3人)が全員もどってから攻撃を開始する。
- ・ キーパーや守備は試合ごとに交代して行う。

【ゲーム1】



【ゲーム2】



4 本時の学習指導

(1) 目標

・ゲーム2の行い方を理解し、ボールを持っていない時に味方との間に守備者が入らないように動くこととパスがつながることがわかり、ゴールに向かってパスをつなげることができる。【思・判・表】

(2) 学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
<p>1 準備運動をする。 ドリルゲーム</p> <p>パスを出したらゴールに向かって素早く移動する。 パスをつなぐには相手の取りやすいところに投げることも大切だよ。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>○ドリルゲーム1では、キャッチの回数が増えていることが分かるように毎時間の記録用紙に記入するように声をかける。</p> <p>○ドリルゲーム2では、素早くシュートまでパスをつなげることを意識させるために、制限時間を設ける。(場合によっては省略する。)</p> <p>○ゲームの中でパスが繋がらなかったシーンの映像を見せ、課題を示す。</p>
<p>ゲーム2で、より多くの得点を取るには、どのようにパスをつなげばいいのだろう。</p>	
<p>守備者の動ける範囲が広がったからパスがつながりにくくなったね。どうしたらいいのかな。</p>	<p>○パスがつながっているシーンの映像を見せ、より多くの得点を取るためには、どのようにパスをつなげばいいか考える。</p>
<p>守備者の頭越しのパスはよくカットされている。</p>	<p>○タブレットに保存されている写真や動画を見ながら、話し合いができるようにする。</p>
<p>3 話し合ったことを共有する。</p> <p>守備者が味方との間に入っていたら、ボールを持っていない人が守備者のいない所に動いてパスをもらおう。</p>	<p>○各チームを回りながら、パスを取られた状況を確認し、だれのどのような動きが必要なのか声をかける。</p> <p>○気づいたことを児童の言葉でまとめる。</p>
<p>指導の重点項目</p> <p>ボールを持っていない時に味方との間に守備者に入られないように動くこととパスがつながるよ。</p>	<p>○パスがつながった時、つながらなかった時の動きをホワイトボードを使って確認する。</p>
<p>4 練習試合をする。</p> <p>5 感想を書く。</p> <p>6 片付けをする。</p>	<p>○味方との間に守備者がいる場合に、守備者がいない所に動いてパスをもらっている児童を意図的に賞賛する。</p> <p>○安全に気を付けて片付けができるように声をかける。</p>